

# 家事代行 少子高齢化で需要

## クラッシーがFC展開

### 四国・関東で40店目標

生活総合支援サービス「クラッシー(徳島市)」は、家事代行サービス事業「クラッシーコンシェルジュ」のフランチャイズ(FC)展開を始めた。少子高齢化を背景に家事代行のニーズが高まる中、地域に密着しきめ細かなサービスを目指す。クラッシーコンシェルジュは、登録スタッフを派遣し、顧客の注文に応じて掃除や洗濯、料理といった家事代行、乳幼児保育、高齢者の介助などの支援サービスを提供。

徳島本社や東京、兵庫の両事務所を拠点に事業展開してきたが、少子高齢化や共働き層の増加、地域コミュニティの希薄化などで生活支援の需要が増大。派遣が難しい中山間地域や都市近郊でも、きめ細かに対応できるようFC店を募ることにした。主に個人での起業を目的に、当初2010年3月末までに四国や関東圏で加盟40店をオープンさせる計画。

植田貴世子社長は「今こそ主婦やシニアの方の

スキルが必要とされている。心のこもったサービス

「スをお届けたい」と話している。

保証金など初期費用は66万円から。加盟店に対し、各種研修のほか開業

後の集金代行や広報活動などの支援もある。問い合わせはクラッシー(電話088(623)6391)。